

数学科（数学B）学習指導案

日時	令和元年6月12日(水)第3限		指導者	山下 峻平	
学級	普通科 2年 3組 理系		教室	135 教室	
単元	第1章 平面上のベクトル		教科書	改訂版 新編 数学B (数研出版)	
指導目標	<p>1 ベクトルの基本的な概念について理解し、その有用性を認識するとともに、事象の考察に活用できるようにさせる。</p> <p>2 位置ベクトルやベクトル方程式について理解し、それらを平面図形の考察に活用できるようにさせる。</p>		指導計画	<p>第2節 ベクトルと平面図形</p> <p>5 位置ベクトル・・・2時間</p> <p>6 ベクトルの図形への応用・・・3時間</p> <p>7 図形のベクトルによる表示・・・3時間 (本時はその3)</p> <p>研究・補充問題・・・2時間</p>	
本時の指導過程	主題	ベクトルの終点の存在範囲		課題	教科書の直線のベクトル方程式の問題(p.40応用例題6)を解く。
	目標	<p>1 実数 s, t の値の変化に伴い、点がどのように動くか理解させる。</p> <p>2 条件を満たすベクトルの終点の存在範囲について、正しく図示できるようにさせる。</p>			
	学習活動		時間	指導上の留意事項	評価規準・方法, 資料等
	導入	<p>1 前時までの学習を確認する。</p> <p>2 本時の内容を確認する。</p>	5	・異なる2点を通る直線のベクトル方程式を確認させる。	・プロジェクタ
	展開	<p>1 教科書p.40応用例題6の解答を確認する。 (1) 実際に、タブレットを用いて点の移動を確認する。</p> <p>2 プリントの問題を解く。 (1) 条件が変わることで、点の存在範囲がどう変化するかを考える。</p> <p>(2) タブレットを用いて、図示された領域を表すような条件を考える。</p>	10 30	<p>・タブレットを利用し、終点の存在範囲を視覚的にとらえさせる。</p> <p>・線分や三角形の周と内部などの代表的なものを取り上げ、基本事項を確認させる。</p> <p>・タブレットを自由に操作させ、問題解決に役立たせる。</p>	<p>・タブレット</p> <p>【評価規準】</p> <p>○ タブレットを用いて、点の移動を確認できているか。</p> <p><関心・意欲・態度></p> <p>【評価方法】</p> <p>○ 行動観察により評価する。</p> <p>・プリント</p> <p>【評価規準】</p> <p>○ 点の存在範囲を正しく図示できているか。</p> <p><数学的な技能></p> <p><数学的な見方や考え方></p> <p>【評価方法】</p> <p>○ 机間指導により評価する。</p>
	整理	<p>1 本時のまとめをする。</p> <p>2 次時の学習内容と課題を確認する。</p>	5	・代表的なものを確認し、それらに帰着させて考えることを強調する。	
備考	Ⅱ類型 理系 生徒数 8名(男子 8名, 女子 0名)				